



無断転載禁止

犬身

松浦理英子著

朝日新聞社 2007

所蔵館 請求記号

本館：J/913.6/Ma89

神田分館：J/913.6/Ma89

【著者プロフィール】

松浦理英子（まつうら りえこ）

1958年8月7日生

大学在学中の1978年「泣き屋」と「笑い屋」との奇妙な交流を描く「葬儀の日」で文學界新人賞を受賞

板坂 則子（文学部教授）

江戸後期の本格小説の中で最も人気を集めた曲亭馬琴作『南総里見八犬伝』（1814～42年、岩波文庫では全10冊）は、こんな話です。里見家の伏姫が父義実の戯れの言葉を守り、敵将の首を取った猛犬八房（義実に殺された美女玉梓の呪いを受けています）にともなわれて富山の奥深くの岩室に入り、仏に仕えて共に暮らすうちに魂の交わりによって懐胎を告げられ、伏姫は自害、八房も死にます。やがて関東の各地に伏姫の身に付けていた八つの霊玉のそれぞれを持つ八人の類い希な犬士たちが生まれ、苦難の旅を続ける中で互いに巡り会い、里見家に結集して理想帝国を生み出していきます。

この物語の型は日本のファンタジーの基本となり、現代でも数多くのパロディや影響作が生まれ続けています。

たとえば山田風太郎『八犬伝』（朝日新聞出版、1983年）は、『八犬伝』の物語内容（虚の世界）とそれを執筆する馬琴や北斎（実の世界）を絡ませて描き、桜庭一樹『伏～贗作里見八犬伝』（文春文庫、2012年）では『八犬伝』で惨殺される娘浜路を中心に「伏」という異形の者たちとの幻想的な

物語が語られます。画像作品に目を移すと、碧也びんく『八犬伝』（角川書店、1991～2002年）は原作に忠実なコミックで、『八犬伝』を堪能できます。物語から大きくジャンプすると、高橋留美子『犬夜叉』（週刊少年サンデー 1996～2008年）は半妖としての英雄像が魅力的です。江戸期小説『八犬伝』の影響作は、途方もなく多いのです。

ところで本稿では、これらとは又、おもむきを異にするパロディ作、松浦理英子による『犬身』をお勧めします。松浦理英子といえば、代表作『親指Pの修業時代』は右足の親指がペニスになってしまった女子大生の話で、「女性と性」に鋭く切り込む作家として知られています。高校生にはちょっと困難…、でも大学生になれば、是非とも挑戦していただきたい作家なのです。『犬身』は、犬が大好きな八東房恵という女性が女性陶芸家の玉石梓と知り合い、バー「犬狼」のマスターと契約を結び、犬のフサとなって大好きな梓と共に暮らします。そして…。BL小説は面白い。でも時には、こんな濃密な女性同士の空間に飛び込んでみませんか？